

野菜畑作生産情報 第6号

平成27年9月17日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦は適期は種で越冬前の生育を確保しましょう！
◎台風や大雨に備え排水対策を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ・ 稔実莢数は、津軽地域では平年を上回り、県南地域では下回っている。
- ・ 一部のほ場で倒伏が見られる。
- ・ ツメクサガ、ウコンノメイガなどの食葉性害虫とべと病の発生が見られる。

表－1 大豆の生育状況 (9月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/本)
農林総合 研究所 (黒石)	本年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/9 (遅5日)	7/30 (遅3日)	113.3 (112%)	64.3 (112%)	2.1 (66%)	41.0 (100%)
	平年	5/25	6/4	7/27	101.3	57.3	3.2	40.8
	前年	5/23	5/31	7/25	86.5	39.4	3.8	39.5
野菜 研究所 (六戸)	本年 (平年差・比)	5/15 (早1日)	5/25 (早1日)	7/27 (±0日)	108.7 (101%)	64.0 (97%)	5.0 (184%)	28.8 (87%)
	平年	5/16	5/26	7/27	107.3	66.3	2.7	33.2
	前年	5/15	5/27	7/26	112.8	68.3	3.1	30.2
五所川原 市 (旧金木)	本年 (平年差・比)	6/3 (遅2日)	6/10 (±0日)	7/29 (早1日)	105.7 (110%)	-	-	51.2 (146%)
	平年	6/1	6/10	7/30	96.4	-	-	35.0
	前年	6/7	6/17	8/2	89.0	-	-	33.6
十和田市	本年 (平年差・比)	6/6 (早1日)	6/15 (遅1日)	8/3 (早2日)	112.3 (119%)	-	-	29.1 (72%)
	平年	6/7	6/14	8/5	94.7	-	-	40.5
	前年	6/4	6/14	8/2	91.1	-	-	28.1

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、五所川原市、十和田市は生育観測ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去10年間、野菜研究所が過去8年間、五所川原市が過去13年間、十和田市が過去14年間の平均値。

(2) 収穫等での留意点

- ・ 台風や大雨で滞水しないよう、排水対策を徹底する。
- ・ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- ・ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- ・ 湿害等により生育差がみられる場合は別刈りするなど、ほ場の状況を見きわめて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏がみられるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

2 小 麦

- ・ 紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。
- ・ 明きよや弾丸暗きよ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- ・ は種作業は9月25日頃までに終え、越冬前の生育量を確保する。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ・ 地上部、地下部とも平年を上回り、生育は順調である。
- ・ 植付けが遅れたほ場では、一部で肥大遅れが見られる。
- ・ 葉渋病、炭疽病、ナガイモコガ、ハダニ類の発生が見られる。

表－2 ながいもの生育状況 (9月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/25 (4日早)	446.9 (115%)	637.8 (145%)	66.7 (104%)	1,279 (145%)	65.3 (107%)
	平年	5/26	6/29	387.0	439.4	64.0	884	61.1
	前年	5/26	6/28	421.9	474.7	65.4	1,072	70.1
五 戸 町	本年 (平年比)	5/ 1 (14日早)	6/ 8 (10日早)	— (—)	— (—)	89.0 (117%)	1,177 (123%)	57.8 (92%)
	平年	5/15	6/18	—	—	75.9	958	62.9
	前年	5/10	6/11	—	—	76.8	1,048	65.1
東 北 町 野田頭	本年 (平年比)	5/10 (8日早)	5/30 (14日早)	— (—)	— (—)	67.0 (108%)	895 (134%)	51.2 (96%)
	平年	5/18	6/13	—	—	61.8	670	53.3
	前年	5/18	6/10	—	—	67.0	709	54.9

注) ①平 年：野菜研は平成19～26年の8か年の平均値。

五戸町は平成13～26年の14か年の平均値。

東北町は平成17～26年の10か年の平均値。

②種 子：野菜研は園試系6の2年子(100g)頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子切いも肩部分(120～150g)。

東北町は庄司系の1年子(60～80g)頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。

東北町は畦幅110cm×株間21cm(3,952株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

⑤五戸町の生育観測ほの追肥は、6月20日に1回目、7月5日に2回目、7月20日に3回目、8月8日に4回目が行われた。

(2) 今後の留意点

- ・ 台風や大雨に備え、ネットや支柱の補強、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- ・ 大雨等により植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。
- ・ ほ場巡回により、病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・ 種いもほ場では、ウイルス病株の抜取りや媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。

2 にんにく

- ・ 植付けが遅れないよう気象情報を参考に計画的に作業を進める。
- ・ 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。
- ・ イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れるので、発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。

3 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ・ は種後に低温が続いたため、地下部の生育が遅れている。
- ・ 病害虫の発生は見られない。

表－3 秋冬だいこんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
東 北 町 御 所	本年 (平年比)	8/ 9 (1日遅)	30.3 (98%)	14.4 (105%)	36.3 (51%)
	平年	8/ 8	30.8	13.7	71.0
	前年	8/12	16.8	6.9	2.4

注) ①平 年：平成13年～26年の14か年の平均値。

②品 種：夏の翼。前年も同じ。

③栽植様式：畦幅60cm×株間23cm、1条植え（7,246株/10a）。

(2) 今後の留意点

- ・ 白さび病（わか症）、キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ・ 地下部の生育は平年を上回り、生育は順調である。
- ・ 病害虫の発生は見られない。

表－4 秋にんじんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平年比)	6/20 (±0日)	52.0 (104%)	7.2 (94%)	15.2 (102%)	38.6 (110%)	91.6 (121%)
	平年	6/20	49.8	7.7	14.9	35.1	75.9
	前年	6/22	43.4	7.8	13.8	37.0	79.0

注) ①平 年：平成9年～26年の18か年の平均値。

②品 種：向陽2号。前年も同じ。

③栽植様式：畦幅148cm×株間12.2cm、5条植え（27,692株/10a）。

(2) 今後の留意点

- ・ 黒葉枯病、ヨトウムシの発生に注意し、早期防除に努める。
- ・ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。

5 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ・ 4月下旬～5月上旬定植の作型では、9～10段果房の収穫期となっている。
- ・ 高温等による落花をはじめ、裂果や小玉化により出荷量が減少している。
- ・ うどんこ病、灰色かび病、アザミウマ類、コナジラミ類、タバコガ類などが見られる。

表－5 トマトの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	7段花房		9段花房		11段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年 (平年比)	5/ 3 (2日早)	7/16 (4日遅)	2.8 (100%)	8/ 3 (4日遅)	2.0 (67%)	8/20 (6日遅)	2.2 (76%)
	平年	5/ 5	7/12	2.8	7/30	3.0	8/14	2.9
	前年	5/ 1	7/11	3.1	7/30	3.3	8/16	3.6
三戸町 斗 内	本年 (平年比)	5/18 (2日遅)	7/24 (3日遅)	1.9 (86%)	8/17 (7日遅)	2.3 (53%)	— (—)	— (—)
	平年	5/16	7/21	2.2	8/10	4.3	8/29	1.5
	前年	5/27	7/28	2.7	8/16	3.3	9/ 1	1.0

注) ①平年：五所川原市は平成16～26年までの11か年の平均値。

三戸町は平成20～26年の7か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）。前年も同じ。

三戸町はりんか409（自根）。前年も同じ。

③五所川原市の生育観測までは、6月25日に6段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新している。

(2) 今後の留意点

- ・ かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、多水分、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
- ・ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
- ・ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。
- ・ オンシツコナジラミ等病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。

◎日本一健康な土づくり強化月間（平成27年9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、焦らず、急がず、慎重に！
 - 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
 - 3 機械点検時にはエンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
 - 4 高所作業では、周囲の状況を確認し、身体の安定を保とう！
-

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5079
直通	017-734-9481
